

同第 1 号

下呂市特別名誉市民表彰につき同意を求めることについて

次の者を下呂市特別名誉市民として表彰したいので、下呂市表彰条例（令和 7 年下呂市条例第 38 号）第 4 条の規定により、議会の同意を求める。

記

住 所	静岡県浜松市（下呂市森 出身）
氏 名	故 鈴木 修
年 齢	享年 94 歳
主要経歴	スズキ株式会社 取締役会長

令和 8 年 2 月 25 日提出

下呂市長 山 内 登

提 案 理 由

下呂市表彰条例に規定する、その功績が卓絶で、市民が郷土の誇りとして等しく尊敬する本市に縁の深い者であると認めるため。

# 功 績 調 書

元 スズキ株式会社 取締役会長

すずき おさむ  
故 鈴木 修

## 1 性 行

氏は、飛驒の厳しい自然と風土に育まれた強靱な精神と、誠実かつ実直な人格の持ち主であった。世界的な大企業の経営を長年にわたり主導しながらも、その本質は常に「現場主義」を貫く技術者・実業家であり、飾らない言葉と親しみやすい人柄は、社員のみならず世界中の人々から深く愛された。

「中小企業の親父」を自認し、一円単位のコスト削減に心血を注ぐ徹底した合理性を持ち合わせる一方で、故郷・下呂市に対しては生涯を通じて深い慈しみの心を抱き続ける姿は、市民にとっての誇りであり、成功を収めてなお失われない謙虚さと郷土愛の象徴であった。

このように、氏は卓越した先見性と人間味あふれる情熱を兼ね備えた、稀代の徳育ある人物であった。

## 2 事 項

氏は、昭和33年に鈴木自動車工業（現スズキ株式会社）に入社以来、卓越した経営手腕を発揮し、昭和53年の代表取締役社長就任から40年以上にわたり同社の舵取りを担った。その最大の功績の一つは、昭和54年に発売した「アルト」による軽自動車市場の革命である。誰もが手軽に所有できる自動車を実現したことは、日本のモータリゼーション、特に地方都市における市民の生活基盤を支える上で多大な貢献を果たした。

さらに氏の慧眼は世界へと向けられ、1980年代にはいち早くインド市場への進出を決断。現地法人マルチ・ウドヨグ社（現マルチ・スズキ・インディア）をインド最大の自動車メーカーへと成長させた。これは一企業の利益に留まらず、同国の経済発展を牽引し、日本とインドの経済外交の懸け橋となる歴史的な偉業として国際的に高く評価されている。

故郷・下呂市に対しては、多額の寄付を通じた教育・文化振興への支援を行うとともに、広く市の魅力を発信し続けた。

これらの功績に対し、国内では昭和62年に藍綬褒章、平成12年に勲二等旭日重光章を受章し、国外では昭和60年にスターラ・イ・パキスタン章、令和4年にハンガリー国大十字功労勲章を受章した。また、インド共和国からも文民最高位の一つである「パドマ・ブーシャン」勲章を授与されている。

下呂市が生んだ世界の巨星として、産業界に留まらず、広く社会の発展に貢献したその功績は誠に多大である。